

13節 木材保護塗料塗り(WP) (改修)

7. 13. 1 一般事項

この節は、屋外の木部の木材保護塗料塗りに適用する。

7. 13. 2 木材保護塗料塗り

木材保護塗料塗りは表7. 13. 1により、種別は特記による。特記がなければ、B種とする。

表7. 13. 1 木材保護塗料塗り

工 程	種 別		塗り工法その他		塗付量 (kg/m ²)
	A種	B種	規格番号	規格名称	
素地ごしらえ	○(注)1		7. 2. 2による		—
1 下塗り	○	○	JASS 18 M-307	木材保護塗料	0.10 (0.06)(注)3
4 上塗り(1回目)	○	○	JASS 18 M-307	木材保護塗料	0.06 (0.04)(注)3
6 上塗り(2回目)	○	—	JASS 18 M-307	木材保護塗料	0.06 (0.04)(注)3

(注) 1.下地調整の種別は、塗料その他の欄による。

2.JASS 18 M-307は、日本建築学会材料規格である。

3.塗装対象が新設木材の場合は、塗付け量を()内とする。

4.新規に塗装する場合は、下地調整に代えて、素地ごしらえを7.3.2により行う。

【7. 2. 2 木部の下地調整】

木部の下地調整は表7. 2. 1により、種別は特記による。特記がなければ、不透明塗料塗りの場合は、RB種とする。

表7. 2. 1 木部の下地調整

工 程	種 別			塗 料 そ の 他			面の処理
	RA種	RB種	RC種	規格番号	規格名称	種 類	
1 既存塗膜の除去	○	—	—	—			スクレーパー、研磨紙等により全面除去する。
	—	○	—	—			スクレーパー、研磨紙等により劣化部分を除去し活膜は残す。
2 汚れ付着物除去	○	○	○	—			素地を傷つけないように除去する。油類は溶剤等で拭き取る。
3 研磨紙刷り	○	○	—	研磨紙P120~220			露出素地面、既存塗膜面を研磨する。
	—	—	○	研磨紙P240~320			
4 節止め	○	—	—	JASS 18 M-304	木部下塗り用調合ペイント	合成樹脂	節及びその周囲に、刷毛塗りを行う
				JASS 18 M-308	セラックニス類	白ラックニス1種	
5 穴埋め	○	—	—	JIS K 5669	合成樹脂 エマルジョンパテ	耐水形	割れ、穴、隙間、くぼみ等に充填する。
6 研磨紙刷り	○	—	—	研磨紙P120~220			穴埋め乾燥後、全面を平らに研磨する。

(注) 1.やに処理は、やにを、削り取り又は電気ごて焼きのうえ、溶剤等でふき取る。

2.ラワン、しおじ等導管の深いもの場合は、必要に応じて、工程2の後に塗料の製造所の指定する目止め処理を行う。

3.合成樹脂エマルジョンパテは、外部に用いない。

4.JASS 18 M-304及びJASS 18 M-308は、日本建築学会材料規格である。

5.工程4の節止めにおいて、合成樹脂調合ペイント塗り及びつや有り合成樹脂エマルジョンペイント塗りの場合はJASS 18 M-304を適用し、それ以外は**JASS 18 M-308**を適用する。

(2) 透明塗料の素地ごしらえで、素地面に仕上に支障の恐れがある著しい色ムラ、汚れ、変色等がある場合は、表18. 2. 1の工程を行った後、着色剤等を用いて色ムラ直しをする。